

IEC TC100 ミンスク会議報告

10月5日(月)~16日(金)に、ベラルーシのミンスク市内のVictoria Olimp Hotelにおいて、第79回IEC (国際電気標準会議)の総会 (General Meeting) が開催されました。期間中、10月5日~9日に、TC100 (AV・マルチメディア、システム及び機器)のAGS (戦略諮問会議) 及びAGM (運営諮問会議)、また傘下グループの会議でそれぞれの事案が議論され、10月10日に開催された第21回IEC TC 100総会 (Plenary Meeting) において、各組織及びグループから報告と活発な審議が行われました。その中から、いくつかの重要な議案について紹介します。

新テクニカルエリアの設置：自動車用マルチメディアシステム及び機器

TC 100/AGSでは、TC 100で標準化すべき将来技術の検討を行っています。その中のStudy Session 5 (SS5) では自動車用マルチメディアシステムの標準化を検討しています。SS5の日本の対応組織であるAV&IT標準化委員会/EVマルチメディア対応PGから提案されたドライブモニター (車載カメラによる車周辺画像の合成システム) に関するNP (新業務項目) が承認され、新たな規格の策定が進められることになりました。

また、かねてより検討していた自動車用マルチメディアシステムに関する技術報告書原案 (DTR: Draft Technical Report [Conceptual Model of Standardization for Multimedia Car System]) の最終テキストの提示や韓国のイベント・ビデオ・レコーダ (Event Video Data Recorder for Road Vehicle Accidents) のNP提案が投票中であることなどが報告されました。SS5の活動が新しいTA設置に相応しい条件を満たしていることから、TC 100総会において新TA (TA17) の設置が提案され承認されました。TA 17のタイトル及びスコープについては、次回 (2016年5月) のAGM会議までに検討されることになっています。



IEC大会会場



TC100総会の幹事団

TC 100の概要

IEC TC 100 (AV・マルチメディア、システム及び機器)

- ・1995年10月に設立
- ・2004年1月より日本が幹事国を務める。
- ・現在、国際幹事：江崎正氏 (ソニー)、国際副幹事：井口敏祐氏 (パナソニック)、佐久間正剛氏 (東芝)、Pメンバー (エキスパートを出して議論に参加する国)：21カ国、Oメンバー (オブザーバの国)：23カ国。現在、傘下に13のTA (Technical Area) がある。なお、TC 100の受託審議団体はJEITAであり、TC 100国内委員会 (委員長：安田浩氏/東京電機大学) を運営している。

新分野の標準化

①UHD (4K以上の高精細映像) のterminology

AGSのSS1では、中国からUHD (Ultra High Definition) テレビの現状と標準化動向に関する報告がありました。今後、HDからUHD機器への移行を見据え、UHD に関するterminology (専門用語) の規定の必要性が議論されており、中国からTS (技術仕様書) の原案が提示されました。原案の完成度が低いことから、このNP (新業務項目提案) を準備するStage 0 Project (規格化のための準備組織) を新たに設置することになりました。

②ウェアラブルに関する標準化

AGSのSS8では、ウェアラブルなシステム及び機器 (Wearable Systems and Equipment) の標準化の検討を行っています。ミンスク会議では、各国からウェアラブルシステムのユースケースの報告とIEC/SMB (Standardization Management Board: 標準管理評議会) 下に新たに設置されたSG 10 (ウェアラブルスマートデバイスの戦略グループ) の状況報告がありました。

ミンスク会議では、AGSにおいて、新たにユーザの快適性とスマート・テキスタイル及びウェアラブルデバイスの評価 (User Comfort and Evaluation of Smart Textiles and Wearables) に関するNP提案を検討するためのStage 0

Projectの設置が勧告されました。また、日本に対して、ヒアリング支援機能 (Hearing Support Function) に関するNP提案、ウェアラブルシステム及びシステムへの電力供給方法 (Power Supplying Scheme) に関するDTR提出が勧告されました。

IECでは、高齢化社会の自立生活支援 (AAL: Active Assisted Living) とウェアラブルスマートデバイスとの標準化議論を開始したところであり、関連する/TA 16 (AAL、アクセシビリティ、ユーザインターフェース) とも連携し、今後、ウェアラブルに関する標準化議論の進展が期待されるところです。

③HDR機器の消費電力測定法

AGSのSS9では、HDR (High Dynamic Range) 映像機器の市場投入に合わせ、HDRに関連した標準化テーマの検討を行っています。今回、AGSでは、HDR映像機器のConcept (概念)、関連の標準や活動状況と市場動向が報告され、HDR映像機器に関する測定方法に関する技術報告書原案 (DTR) が提示されました。この原案は完成度が高いことからDTRとして回付するよう勧告されました。

④CPS (サイバー・フィジカル・システム) への対応

AGSは、IECの旧PACT (未来技術会長諮問委員会) レポートで示されたサイバー世界のマルチメディアに関する標準化について、TC 100の範囲内での可能性を検討するために、新たにSS10 (Multimedia Cyber Technology) の設置を勧告、暫定リーダーとして、由雄淳一氏 (パイオニア株式会社) を任命し、新分野に関する標準化を検討することとなりました。

お祝い (IEC トーマス・エジソン賞 及び IEC 1906 賞)

IECの議長・幹事業務における多大な貢献に対して贈られるIECトーマス・エジソン賞に、日本から江崎 正氏 (TC 100国際幹事: ソニー株式会社) が受賞の栄誉に輝きました。

また、大きな貢献があったエキスパートに贈られるIEC 1906賞には、古川 洋氏 (ソニー株式会社)、奥田 悟崇氏 (三菱電機株式会社)、深見 拓史氏 (有限会社インターメディアジャパン) の3名の方々が受賞されました。おめでとうございます。

SMB/SG10概要

- *タイトル: Wearable Smart Devices (WSD)
- *スコープ: WSDの専門用語及び共通理解、IEC内外の関連活動の情報共有、優先活動の検討、IEC内の連携。
- *韓国と日本がCo-Convenor (日本は、江崎正氏/ソニー株式会社)
- *メンバー: 関連TCの代表者他

今後の AV&IT 標準化委員会による標準化対応

AV&IT標準化委員会 (委員長: 今井隆洋氏/シャープ株式会社) では、AVマルチメディアやホームネットワークなどによるエンターテインメントで人々の生活を豊かなものとするを目的とした、AV機器フォーマットやインターフェース等の標準化 (市場的標準化) はもとより、最近クローズアップされてきている社会的なテーマにも対応しています。

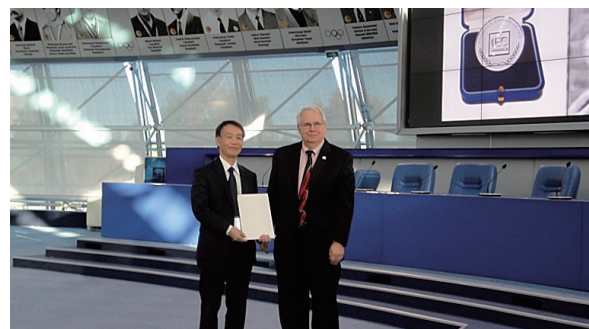
ここ数年来、IECにおいて、アクセシビリティや自主生活支援 (AAL)、エネルギー効率・省エネ等環境関連など社会的標準化テーマが話題の中心になりつつあります。規制当局や社会的なニーズに基づく、これらの潮流にもタイムリーに、迅速に対応した標準化活動を行っていきます。

TC100が設立されて以来、約20年間、JEITAメンバーが中心となり、TC 100を通じて、国際標準化活動を行ってきました。今後は、システム、環境、次世代カーエレクトロニクス、スマートグリッド等新しい分野や横断的テーマが増えてくると予想されます。

JEITAメンバー企業のビジネスに資するべく、我々の強みを活

最後に

IEC TC100総会及びIEC大会開催に向けて尽力された、ベラルーシの国内委員会とボランティアの方々を始めとした現地関係者の皆様に感謝の意を表します。



IECトーマス・エジソン賞の授賞式